

教科（科目）	社会（歴史的分野）	学年（系）	3年
使用教科書	中学社会 歴史的分野（日本文教出版）		
副教材等	最新資料集(明治図書) 歴史の学習（浜島書店） 新社会の研究（新学社） 基礎をきづく歴史（浜島書店）		

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- ・我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

2 指導の重点

- ・小・中・高のつながりを意識し、小から高への橋渡しする役割を担っていることを自覚して指導する。
- ・時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどの「歴史的な見方・考え方」を働かせて、歴史について考察する力や説明する力を身に付けさせる。
- ・第一次世界大戦以降における、基礎的・基本的な歴史的知識を確実に身に付けさせる。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	備考
4	第5編 近代の日本と世界 第1章日本の近代文化 ③近代国家へのあゆみ ④立憲国家の成立	P160～183	・明治維新 ・殖産興業と富国強兵 ・文明開化の展開 ・領土の画定と隣接地域 ・士族の反乱と自由民権運動	6	
5	④立憲国家の成立 ⑤日清・日露の戦争と東アジアの動き	P184～193	・憲法をめぐる対立と運動の激化 ・内閣制度と大日本帝国憲法 ・帝国議会と条約改正 ・朝鮮をめぐる日本と清の対立 ・朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立	6	
6	⑤日清・日露の戦争と東アジアの動き ⑥近代日本の社会と文化	P194～199	・日本の朝鮮支配と中国の近代化 ・資本主義の発展と社会問題 ・社会運動の発展と近代文化の形成	6	中間考査
7	第2章 二度の世界大戦と日本 ①第一次世界大戦と戦後の世界 ②大正デモクラシーの時代	P208～217	・第一次世界大戦 ・日本の参戦と大戦期役 ・大戦後の世界とアジアの民族運動 ・政党政治の発展 ・社会運動の広がり	6	
9	②大正デモクラシーの時代 ③世界恐慌と中国との戦争	P218～229	・都市化の進展と大衆文化 ・世界恐慌と各国の対応 ・日本の恐慌と東アジア情勢	6	期末考査

			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の進路を変えた満州事変 ・日中全面戦争と戦時体制 		
10	④第二次世界大戦と日本	P230～237	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の始まり ・アジア・太平洋での戦争 ・戦時下の国民の生活 ・平和へのあゆみと戦争の傷あと 	6	
11	第6編 現代の日本と世界 ①平和と民主化への動き	P248～259	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の世界と日本 ・平和国家をめざして ・占領下の日本と国民の生活 ・冷たい戦争と世界の動き ・国際社会への復帰 	6	中間考査
12	②国際化する世界と日本	P260～270	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長 ・日本をとりまく国際関係 ・多極化する世界と日本 ・先進国日本の課題 ・21世紀と日本の役割 	6	
1	前期課程の総復習		総合問題をつうじて、知識の向上をめざす。	6	
2	前期課程の総復習		高校入試問題などをつうじて、総合的な実力の向上をめざす。	6	期末考査
3	課題探究		現代社会における諸問題を研究し発表する。	5	

計65時間(48分授業)

4 課題・提出物等

(課題) 長期休業課題 定期テスト前課題 自主課題 (提出物) ワークノート 自主学習ノート

5 評価方法

	知識・技能	思考・表現・判断	主体的に取り組む態度	評価基準
評価の観点	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	評定> 各観点の合計点 達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
評価方法	以上の観点をもとに、 ・授業の取り組み(授業態度や学習活動への参加状況)・課題への取組状況 ・小テスト・定期テストなどから総合的に評価します。			
	A 十分満足できる…80%以上 B おおむね満足できる…50%以上 C 努力を要する…50%未満			

6 担当者からの一言

なぜ日本は長い戦争の時代を迎えることになったのか？—日本と世界の歴史のなかで読み解いていきましょう。そして、過去の歴史が、今日の私たちの時代にどのようにつながっているのかを考えていきましょう。

